

### 巻頭言 定年退職に際して ～泌尿器科医としての39年間～



＜泌尿器科＞  
富士 幸蔵 教授

昭和医科大学を卒業し泌尿器科医となり39年の歳月が流れ、このたび定年退職を迎えることとなりました。当院には2019年に赴任しましたが、これまでつつがなく勤めることができたのはひとえに良き先輩や後輩、そして多くの関係諸氏のご助力の賜物と深く感謝しております。私が泌尿器科医となった当時は前立腺肥大症の手術が開腹手術から経尿道的内視鏡手術に移行した時期で、傷ひとつ付けずに排尿機能を劇的に改善する外科的治療の力に魅了されました。それ以降、泌尿器手術習得に精進してきました。また、入院医療費包括評価制度（DPC）の草創期から厚生労働省MDC11作業班や学会保険委員会に加わり保険制度についても学んできました。

現在も厚生労働省医療技術評価分科会委員などを拝命し、臨床医と当局との橋渡し役を務めさせて頂いております。今後も今までの経験を活かし、微力ながら次世代の泌尿器科医育成のお手伝いをさせて頂く所存でございますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

### ～事務長着任のご挨拶～



＜事務部＞  
伊藤 大輔 事務長

この度、事務長に着任いたしました伊藤大輔です。実は、私は2001年の開院時、新卒職員としてこの地に立っております。その当時は「インフォームドコンセント」や「セカンドオピニオン」がまだ新しい言葉だった時代でした。（24時間闘わなくなった頃かと思います。）あっという間に四半世紀が経ち、今や手術は当然のようにロボットが支援し、コンタクトレンズは眼に縫いつけるようになり、抗がん剤はオーダーメイドとなり、さらには再生医療の確立まで間近になっています。猛スピードで進歩する最新医療を常に地域の皆様へ提供し続けられるよう、横浜市北部病院スタッフ一同邁進してまいります。よろしくお願い申し上げます。

P1 【巻頭言】定年退職に際して ～泌尿器科医としての39年間～  
【事務長着任のご挨拶】

P2 【医学講座コーナー】急性喉頭蓋炎について

P3 【お知らせ】ひな祭りの病院食のご紹介

【お知らせ】澤田 成彦 准教授がロボット外科学会  
国内A級ライセンスを取得しました

P4 【患者さんからのご意見・ご要望】【編集後記】

3月

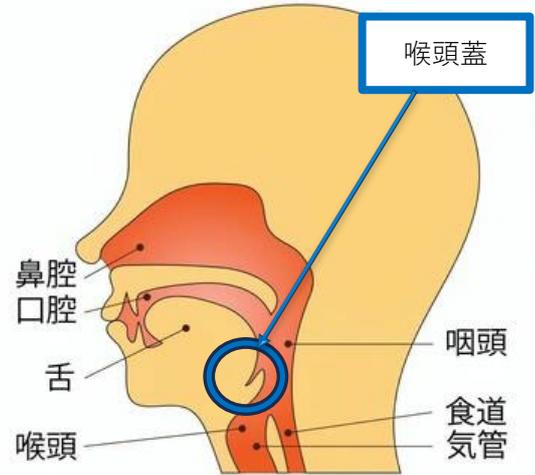
## 【医学講座コーナー】急性喉頭蓋炎について

(耳鼻咽喉科 宮地 理瑛 助教)

### 急性喉頭蓋炎について

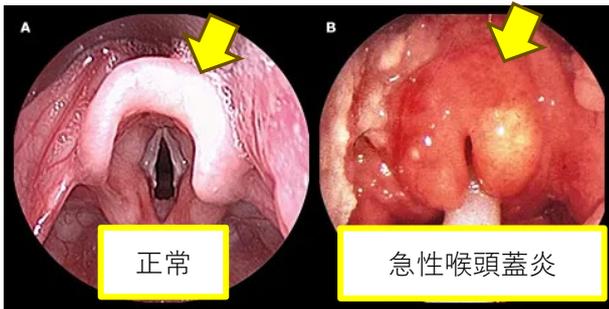
急性喉頭蓋炎について名前を耳にしたことがあるでしょうか。おそらく急性扁桃炎は知っているけど・・・という方が多くいらっしゃると思います。

“喉頭蓋（こうとうがい）”とはどこの部分を指すかという、声を出す声門のすぐ上にあります。嚥下時に気管に食物が行かないようにふたをして、食道に導く役割をしています。急性喉頭蓋炎とは、咽喉頭の炎症から急激に喉頭蓋とその周辺の発赤と腫れをきたし、悪化すると声門を塞いでしまうことで窒息死する可能性のある危険な疾患です。細菌感染によるものが多く、疲労や睡眠不足による免疫力の低下、高齢、高血圧、糖尿病や自己免疫性疾患、飲酒、喫煙などが悪化するリスクとなります。また歯科治療、気道熱傷や魚骨などの異物から起こる可能性もあります。



### 症状について

早期から発熱、咽頭痛、嚥下痛、食事困難がでることが多く、喉頭蓋の腫れが悪化すると呼吸困難感や唾が飲み込めない、頸部痛などの症状をきたすこともあります。重篤な状態の場合は点滴などでもすぐには改善しづらく、窒息を防ぐために緊急気管切開（首の一部を切って、気管から呼吸できるようにする処置）となる可能性があります。



### 効果的な対策について

まずは咽頭痛や発熱が出た場合には、早めに最寄りの耳鼻科を受診することです。耳鼻科医が急性喉頭蓋炎を疑った場合には喉頭ファイバーを用いて咽喉頭を観察し、炎症があるかを確認します。急性喉頭蓋炎と診断された場合には当院のような大学病院での処置が必要になることが多いので、紹介状を持ってできるだけ早く紹介先の病院を受診しましょう。

急性喉頭蓋炎にまで悪化することを防ぐには、手洗いやうがいといった基本的な感染予防策が一番重要になります。また喉の違和感や咽頭痛が出始めたら飲酒や喫煙、激しい運動は控えること、普段からバランスの良い食事や睡眠も悪化を防ぐのにとっても大切です。

### 併せて注意した方がよいこと

急性喉頭蓋炎が好発しやすい年齢は30～60歳で、男女比は2-3:1と男性に多い傾向があります。咽頭痛と発熱が短時間で急激に悪くなっていく場合は急性喉頭蓋炎となっている可能性を考えて早急に最寄りの耳鼻科を受診しましょう。治療は入院して、点滴で抗菌薬や腫れを引かせるステロイドといわれる薬剤を投与します。重篤な場合には緊急気管切開術を行なって、まずは呼吸をできる状態にします。診断が遅れると悪化しやすくなり入院の期間も長引いてしまいます。まずは感染予防策を行いながら、無理をしない生活を心がけましょう。

## 【お知らせ】ひな祭りの病院食のご紹介

春の日差しが穏やかな季節となりました。3月3日はひな祭りです。当院も、夕食にひな祭り献立を提供させていただく予定です。

「ちらし寿司」は、見た目も華やかな縁起の良い具材が入っています。海老は長寿、れんこんは見通しが良くなるように、錦糸卵は、黄身と白身を金銀に表し豊かに暮らせるようにといった願いが込められています。

また、添えの生姜の甘酢漬けはガリと呼ばれていますが、噛んだ時に「ガリガリ」という音や、ガリガリとした食感があることなどが語源と言われています。生姜には殺菌効果の成分や、消臭作用の成分が含まれているため、食べ物が傷みにくく、食べた後に口の中をさっぱりさせる作用があるようです。三寒四温の時節柄、お身体に気を付けてお過ごし下さい。



## 【お知らせ】澤田 成彦 准教授がロボット外科学会 国内 A 級ライセンスを取得しました

横浜市北部病院消化器センター外科は2023年1月よりロボット手術を開始いたしました。直腸切除、結腸切除、胃切除と順次導入いたしました。毎月10-15例のロボット手術を施行しており、2025年11月までの2年11ヵ月で、ロボット直腸切除(直腸高位切除、直腸低位切除、直腸切断術)を170例、ロボット結腸切除(回盲部切除、右半結腸切除、横行結腸切除、左半結腸切除、S状結腸切除)を103例、ロボット胃切除(幽門側胃切除、噴門側胃切除、胃全摘術)を92例施行しております。ロボットが使用できない場合は従来の腹腔鏡手術を施行しております。当センターでは、ロボット手術の指導資格であるプロクター(指導医)を現在4名輩出しており、また、神奈川県消化器外科領域では2人目となる国内A級認定を取得いたしました。同一施設内に消化器外科領域のプロクターが3名以上在籍している病院は全国的にも数は少なく、それだけにロボット手術技術の安定度、安全度は国内有数と自負しております。腹腔鏡技術認定医は2024年に1名取得し、2025年には2名輩出しており、胃切除、大腸切除、胆のう摘出術、ヘルニア修復術においての腹腔鏡手術手技を高いレベルで維持するように努めております。腹腔鏡手術適応外となる疾患においては開腹術になりますが、こちらも高い技術を持ち合わせていると考えております。ロボット手術、腹腔鏡手術ばかりがメディアでは注目されていますが、癌手術の基本技術、基本的な考え方は開腹手術です。

また、外科的手術のみならず、外科的手術適応となるような疾患も消化器内科医師に依頼し、高レベルの技術で内視鏡腫瘍切除を多数施行しており、患者さんの満足を得られるようにしております。癌治療ガイドラインを遵守することも大切ですが、質の高い最新の医療技術を磨くことはもちろん、患者さん一人ひとりの目線に立ち、患者さんのバックグラウンドを考慮した治療を行うことが重要と考えております。

医療環境は厳しさを増すばかりですが、その中でも医局員一同、努力を怠らず、患者さんには真摯な姿勢で向き合い、診療に努めてまいります。

(消化器センター 澤田 成彦 准教授)

## 患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
外来受診で来ました。2階の西棟連絡通路で、バッグの中に犬を入れて歩いている方がいました。ぜひ入口に貼り紙をしていただきたいです。動物はNG！	ご意見ありがとうございます。 当院では、ペットを同伴してのご来院はご遠慮いただいております。正面入口等にその旨を掲示しております。 なお、緩和ケア病棟におきましては、患者さんのご要望に応じて、一定の条件のもとペットとの面会を認めております。今後も、皆さまが安心してお過ごしいただける環境づくりに努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。 (回答部署:管理課)
授乳室をつかってほしい。	ご意見ありがとうございます。 授乳室は、中央棟1階の小児科外来に1室設置しております。通常は施錠しておりますので、ご利用の際は小児科外来(18番)の受付職員までお声がけください。 また、2階外来でのご利用をご希望の方には、空いているお部屋をご案内できる場合がございます。 ご希望の際は、2階各外来の受付職員までお申し出ください。 (回答部署:管理課)

## 編集後記

まだ肌寒さが残るものの、日差しの中に春の気配を感じる季節になりました。病院の周りでも、街路樹の枝先に小さなつぼみが並び、足元には草花が顔を出し始めています。

こうした自然のゆるやかな変化は、私たちに「焦らなくていい」という優しいメッセージを届けてくれるようです。3月は、何かが大きく変わるというより、少しずつ切り替わっていく季節のように感じます。朝、上着を一枚減らそうか迷ったり、夕方の空が思ったより明るかったり。そんな小さな場面に、春が近づいていることを教えられます。新しい予定や節目を前にすると、つい気持ちが忙しくなりますが、すべてを一度に整えなくても大丈夫。今日はここまで、と区切りをつける日があってもいいのだと思います。季節が自分のペースで進むように、私たちの毎日も、それぞれの歩幅で進んでいけたら。そんなことを感じる3月です。  
(看護部 福岡 絵美 次長)

北部病院だより 第213号(2026年3月1日発行)  
発行責任者 坂下 暁子(昭和医科大学横浜市北部病院長)  
編集責任者 緒方 浩頭(広報委員会 委員長)  
発行 昭和医科大学横浜市北部病院  
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1  
電話 045-949-7000(代表)  
URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>  
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

